

金賞

自分たちの設備は自分たちで守る！

株式会社デンソー 幸田製作所

石田 ひかる

「もっと設備の勉強がしたい」そう思い始めたのは入社15年目の頃でした。それまではラインの作業員として生産に従事するだけの毎日で、「特別な知識がなくてもこのまま変わることなく業務を続けていくことが出来ればいいかな」と思っていました。しかしある日、新規ラインの立ち上げに携わることになり、今までの生産業務とは全く違う内容に苦戦する日々。設備に異常が起きても自分で保全員を呼んだこともなく、知識がないため現象を説明することすらもできません。私は悔しくて「このままじゃダメだ」と一念発起し、それからは班長や先輩に教えてもらいながら少しずつ設備の勉強を始めました。その成果もあって設備の異常も少しは理解ができるようになりました。そして新規ラインが軌道に乗った頃でした。上司との面談で「最近、設備について色々勉強していたけど、2年間の保全留学に挑戦してみるか？」とオファーの話がありました。私の中で保全員は設備のことは何でも知っているスペシャリスト。「設備のことを少ししか理解していない私が2年も務まるのだろうか」と不安が先行しました。しかし、そんなスペシャリストの中に飛び込むということは、設備について学べる最大のチャンスです。こんなチャンスは逃したら二度とないかもしれない。「行くななら今しかない！」と、私は留学を決意しました。そして保全留学がスタート。初日から保全業務の大変さは想像以上で、たくさんかかってくる修理依頼の電話に驚きしかありませんでした。また、前例のない修理で長丁場になっても、今までの経験から故障を紐解き何とか直そうとチャレンジする先輩保全員の姿に、ただただ凄いなと思うばかりでした。そしてさまざまな修理に同行する中で、私はあることに気がつきました。それは現場が気づけば予防できる故障があることでした。ある日、「異常解除ができない」と現場から修理依頼があり、私は先輩保全員と現場へ急行しました。取扱説明書を見ながら異常のトラブルシューティングをしていくと『フィルタの目づまり』と記載がありました。すぐにフィルタを取り外して確認すると埃が詰まった状態でした。掃除機で埃を吸い取り復元すると、あっという間に異常は解除。たったの数分で復帰できたのです。保全室に戻る途中、先輩保全員が教えてくれました。

「フィルタの目づまりひとつで高額なコントローラが簡単に壊れることもあるんだよ」と。もし、現場がこのフィルタの存在に気づいて清掃していたら、設備停止時間はもっと少なくて済んだかもしれません。いや、もしかしたら『予防できた故障』かもしれません。私は同じようなフィルタ構造の設備を持っているラインはないか調べ、そのラインにメンテナンス情報としてフィルタの清掃方法を展開しました。また、今回のように日常点検表に載ってはいるけど、一般の作業者には点検場所が分かりにくいという問題点も判明しました。私は日常点検表の裏側に点検場所の写真を掲載した事例も同様に展開。見て使える日常点検表で点検モレが無いように改善しました。情報を展開後、同じような症状が出ていたラインから「今まで分かりにくかったメンテナンス場所を教えてくださいありがとうございます！」という、嬉しいメールがたくさん届きました。私はこのメールを励みに今日も先輩保全員からたくさんの知識を学んでいます。そしてその知識を確実に身に付け、現場に復帰した時は気づきによる日常保全で『自分たちの設備は自分たちで守る！』をいつも心に、設備故障の予防に貢献していきます。